



耐性菌の心配が少なく、他の薬剤耐性菌にも有効！



殺菌剤 有機銅水和剤
オキシンドー[®]
水和剤 **80**

優れた保護殺菌力！



〈写真はイメージです〉



殺菌剤

優れた保護殺菌力！
耐性菌の心配が少ない！

オキシンドー[®]水和剤80

有効成分：8-ヒドロキシキノリン銅…80.0%
毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

▼適用病害虫および使用方法

(2014年11月現在の登録内容)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数	
みかん	黒点病、黄斑病	800～1000倍	200～700ℓ/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	そうか病、炭疽病(さび果)	800倍						
かんきつ (みかんを除く)	黒点病、黄斑病	800～1000倍		収穫30日前まで	3回以内		3回以内	
	そうか病、炭疽病(さび果) 幹腐病	800倍						
りんご	黒星病、黒点病 斑点落葉病	1200～1600倍		収穫14日前まで	4回以内		7回以内 (塗布は3回以内、 散布は4回以内)	
	輪紋病、すす点病 すす斑病、褐斑病、炭疽病	1200倍						
マルメロ、かりん	黒点病	1200～2000倍		収穫3日前まで	9回以内		4回以内	
なし	黒斑病、黒星病 輪紋病							
かき	炭疽病、落葉病、うどんこ病	1000～1400倍		収穫14日前まで	5回以内		8回以内 (塗布は3回以内、 散布は5回以内)	
もも	縮葉病	1000倍		発芽前～開花直前まで 但し、収穫60日前まで				
おうとう	褐色せん孔病	1200倍		収穫終了後～落葉期まで	3回以内		6回以内 (塗布は3回以内、 散布は3回以内)	
はくさい	軟腐病	800～1200倍		100～300ℓ/10a	収穫30日前まで		5回以内	5回以内
	べと病	800倍						
レタス	腐敗病	1200倍	収穫21日前まで					
キャベツ	黒腐病、軟腐病	1000倍	収穫14日前まで		3回以内	3回以内		
こんにゃく			腐敗病		8回以内	8回以内		
いちご	炭疽病	400倍	育苗期		3回以内	3回以内		
麦類(小麦を除く)	紅色雪腐病、雪腐小粒菌核病		根雪前		2回以内	2回以内		
小麦		眼紋病	60～150ℓ/10a		収穫60日前まで	5回以内	5回以内 (種子への処理は 1回以内)	
シクラメン	炭疽病	1000倍	100～300ℓ/10a		発病初期	3回以内	5回以内	
芝	雪腐病	250～500倍	1～2ℓ/㎡		根雪前			
		40～80倍	0.2ℓ/㎡					
西洋芝(ベントグラス)	かさ枯病	200倍	0.5ℓ/㎡		発病前～発病初期	5回以内		

作物名	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	有機銅を含む農薬の総使用回数
西洋芝(ベントグラス)	コケ類	コケ類発生期	80～120倍	0.2～0.3ℓ/㎡	5回以内	散布	5回以内

注意事項

- 石灰硫黄剤、水和硫黄剤との混用は薬害のおそれがあるのでさける。
- 病害多発時の使用では効果が劣る場合があるので発生が少ない時期又は発生初期から1～2週間おきに予防的に散布する。
- 落葉果樹に使用する場合、病害の感染初期から7～15日おきに散布する。
- りんごに使用する場合、さび果の発生を多くする場合がありますので、落花直後から落花20日後頃まで使用をさける。また、樹勢の弱い場合には連用散布すると生理落葉を助長する事例もあるので、連用は避けることが望ましい。特にゴールドエン及びゴールドエンからの育成品種には注意する。
- ももに使用する場合は、発芽後の若葉には薬害を生じる恐れがあるので、展葉後の散布は避ける。
- 芝の雪腐病予防には根雪前に1㎡当り所定濃度の希釈液1～2ℓを10～14日間隔で2～3回散布する。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行く。
- 芝のコケ類予防には薬量として1㎡当り2.5gを芝生育期のコケ類発生期に10～14日間隔で2～3回散布する。
- ベントグラスに使用する場合、夏期高温時に連続散布すると薬害を生じるおそれがあるので所定量を厳守する。
- 麦類の紅色雪腐病、雪腐小粒菌核病に使用する場合のはなるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当り100～200ℓを散布する。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合には、次のことに注意する。
 - 1) 内袋は、濡れた手で触らない。
 - 2) 外袋の開封後は、一度に使いきるのが望ましいが、保管する場合は、密封して、湿気を帯びないように注意する。

- シクラメンに使用する場合、葉と花に汚れを生じる恐れがあるので、必ず展着剤を加用して散布する。
- はくさいに使用する場合、幼苗期、高温期には薬害を生じるおそれがあるので、過度の連用を避ける。
- はくさいの軟腐病などの細菌性病害予防に使用する場合、発病後の散布では、効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布する。
- 自動車などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬剤の有無を十分確認してから使用する。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空袋等は現場などに放置せず、適切に処理してください。



日本農薬株式会社

東京都中央区京橋1丁目19番8号

カスタマーサービス TEL. 03-6361-1414

ホームページアドレス <http://www.nichino.co.jp/>

2014年11月作成版(SK)CH11411S